



しずく 通信

十号目のごあいさつ

(はるまき)

この号で、しずく通信は十号目になりました。

創刊号を作ったのは、はるまきが加わってひと月の頃でした。家族が寝たあとの一時間で、栗のメモを何度も読み返して、洗濯物をたたむ手を止めながら書いたのを覚えています。あれから二年と三か月。会は二十九回になり、寄稿はこの号の二本を入れて二十本になりました。

長く煮込んだ鍋みたいに、号を重ねるほど、中身の味がなじんできた気がします。いや、ほんとに、最初の頃の号を読み返すと、ちょっと照れちゃうんですけどね。

九月からは、草餅が加わりました。十一人です。

もくじ

十号目のごあいさつ (はるまき) ／ 感情浴会の記録 第27回～第29回 ／
草餅のこと ／ 寄稿 短編集を人に渡す (草餅) ／ 寄稿 夜更けのアルバム (オト) ／ 秋の選書 ／ 次の会

感情浴会の記録

今回は、それぞれの記録係の書き出しを一行ずつ借りて、まとめました。

第27回（七月） 懐かしみたい 『MOTHER2 ギーグの逆襲』

進行はヤギ。二十八年前の夏に出たゲームを、ヤギが決めた範囲まで、それぞれ遊んできました。子どもの頃に遊んだことがあるのは、十人のうち四人。遊びはじめに好きな食べものを入れる画面があって、皿はカレー、ぬかはぬか漬けと入っていました。灯は、夏の夜に男の子が家を出ていく最初の場面で、実家の網戸の音を思い出したそうです。会のあと、用事もないのにお母さんに電話をした、と書いてありました。

第28回（八月） 笑いたい 『カメラを止めるな！』 上田慎一郎監督

進行はロク。十人全員が同じ時間に再生しました。ロクの注意は、はじめの三十七分は何かあっても止めないこと、そこでどう感じたかをまだ誰にも言わないこと。後半のことは、ここにも書きません。途中で記録係のマイクが五分ほど音を拾わなくなって、そのあいだ、ぬかはひとりで声を出して笑っていたそうです。

第29回（九月） 考え込みたい 『平家物語』（テレビアニメ・山田尚子監督）

進行は鹿の子。加わったばかりの草餅が、最初の会でいきなり記録を引き受けてくれました。全話をそれぞれ観てきて、当日は第1話と最終話を同じ時間に再生しています。十一人のうち十人で、オトは夜勤で欠席。鹿の子の問いは、この物語は誰のために語られているのか。答えは、まだ出ていないそうです。

草餅のこと

九月から加わった草餅は、漫画の記録を担当してくれます。大学生で、少女漫画も青年漫画も読む人です。好きな短編集を人に渡すのが趣味だと聞いて、さっそ

くそのことを書いてもらいました。

寄稿 短編集を人に渡す

(草餅)

右ページのいちばん下の小さなコマで、男の子が、ほんの少しだけ笑う。うちはそのコマのために、この本を人に渡している。

和山やまの『夢中さ、きみに。』。男子高校生たちの、変わっているけど、どこにでもありそうな日々の短い話が集まった一冊。大きなことは何も起きない。でも、コマとコマのあいだに、言わなかった言葉がちゃんと置いてある。

短編集を人に渡すとき、うちは、どの話から読んでほしいかを付箋に書いて挟む。最初の話からじゃなくていい。その人がいま疲れているなら、いちばん短い話。落ちこんでいるなら、最後の話。付箋を一枚選ぶだけで、渡すほうもけっこう緊張するんだ。

高野文子の『棒がっぽん』は、渡した相手が半分くらいの確率で、分からなかった、と言って返してくる。それでいいと思ってる。三年後くらいに、もう一回読んでみて、と言って、また渡す。

去年出た『藤本タツキ短編集 17-21』は、まだ誰にも渡せていない。見開きで何度も本を閉じてしまって、自分が読み終わらないから……

この秋、誰かに一冊渡すなら、若葉みたいな色の付箋を挟んで渡したいな。

寄稿 夜更けのアルバム

(オト)

夜勤のない日の、零時すぎ。

眠れない。

眠れないのは、昼に眠ったから。

そういう夜に聴く一枚。

細野晴臣の『HOSONO HOUSE』。

五十年近く前の録音。

自分の家で録ったらしい。

だから、部屋の音がする。

床のきしみのような。

二曲目から、夜が少しやわらかくなる。

窓の外の街灯が、なぜか遠く見える。

もう一枚。

Nujabesの『modal soul』。

歌の少ない一枚。

ピアノと、乾いた太鼓。

街灯の下を、歩いているような拍。

どちらも、夜明け前には聴かない。

夜明け前は、始発の一枚の時間だから。

夜更けと夜明け前は、同じ夜でも、別の道。

秋の選書

『容疑者Xの献身』東野圭吾（小説）

選んだ人：鹿の子。天才的な数学教師が、隣に住む母娘のために、ある図面を引く。その図面の本当の形を、結末の手前で知ることになるだろう。

『停電の夜に』ジュンパ・ラヒリ（小説）

選んだ人：灯。短い話がいくつか入った本です。表題の話は、停電の続く数日間、夫婦が暗い部屋で少しずつ話をする話。秋の夜に、明かりを少しだけ落として。

『羊たちの沈黙』ジョナサン・デミ監督（映画）

選んだ人：ロク。ガラス越しの会話。画面の中心より、画面の端に目がいく。

『もりのなか』マリー・ホール・エッツ（絵本）

選んだ人：めじろ。男の子が、紙のぼうしをかぶって森へ散歩に行く。白と黒だけの絵なのに、読み聞かせのとき、森のにおいがする気がするんだなあ。

次の会

- 第30回（十月） テーマ「ぞくっとしたい」。夕木春央の小説『方舟』。先月出たばかりの本です。進行は鹿の子、記録はオト。結末には触れない約束は、今回も同じです。
- 第31回（十一月） テーマ「癒されたい」。テレビアニメの回です。草餅の初めての進行で、記録は凧。

しずく通信 第10号 2022年10月 編集：はるまき

しずく通信 第10号

2022年10月 発行

編集 はるまき

発行 一滴舎

この冊子は会員向けに発行したものです。